

# INTERIOR NEWSPAPER

PUBLISHED BY ROYAL FURNITURE COLLECTION - TOKYO

VOL.2  
JUNE 2018

ROYAL  
FURNITURE  
COLLECTION  
1988-2018



## ヴィルヘルム・ウォラートと サマーハウス

POVL VILHELM WOHLERT - PYRAMIDERNE

A STORY ABOUT A MASTERPIECES  
名作の話

THE LIFE STYLE OF SCANDINAVIANS  
デンマークにおけるサマーハウスの文化

STORY  
ルイジアナ近代美術館の建築家  
ヴィルヘルム・ウォラート

抽選で  
10名様に  
ハンティングチェア  
プレゼント



最近では、デンマークのヒュッゲが話題になることが増えました。このテーマを扱った書籍も増えています。そのなかでも、ヒュッゲに関する書籍がもっとも販売部数を伸ばしているのが英国です。それはなぜでしょう？彼らがキャンドルを使用する量はスカンジナビアの人々の10分の1にも満たないのです。つまり、照明による心地よさの度合いは少ないのです。私自身、キャンドルの愛好家ですが、2年ほど前から人工のキャンドルを使用しはじめました。はじめはあまり好きではなかったのですが、多くのものはリモコンでも操作ができます。遠くから見ると、決して悪くはないのです！おまけに、火事の心配もありません！心地よい空間を演出するために、こうしたキャンドルはとても有効です。そしてノスタルジックな音楽とノスタルジックな家具！何十年もの昔のファッションや音楽が定期的に現代にリバイバルを果たす状況もみごとなもので、近年において信じられないほど多くの昔ながらのデザインのインテリア・アイテムの生産が再開されました。とりわけ家具においてこうした傾向は顕著です。こうしたリバイバルの理由を説明することができなくても、ありのままを受け止めようではありませんか！この号でも、こうした内容にふれてまいります。将来、これらの記事をまとめた私のメールマガジンが皆様にとって素敵なインスピレーションの源となるよう願っております。

編集者：ニールス・オアトフト ロイヤルファニチャーコレクション東京 創業者(1988年創立)



デンマークにおけるサマーハウスの文化

## THE DANISH SUMMER HOUSE CULTURE

デンマークの人々が休日を過ごすサマーハウス(別荘)は、デンマークのインテリア文化に多大なる影響を与えてきました。

その理由は、国土面積が北海道のおよそ半分で人口600万人以下というデンマークにおいて22万5千戸もの戸数があることに起因します。

数多くのインテリアデザイナーがそれぞれのデザインについて思案を巡らせ、アイディアを盛り込む場所である一方、多くの家庭にとってはサマーハウスは家具やインテリアアクセサリを住居と交換することによって様々なスタイリングの実験を試みる場所でもあるのです。

なぜこれほど多くのサマーハウスがあるのでしょうか？その主な理由は、サマーハウスが住宅の近くにあるからです。つまり、サマーハウスの所有者の多くは、たった45分ほど運転すればサマーハウスにたどり着くことができます。さらには、デンマークの海岸線は8千キロ以上にわたって広がっており、デンマークの人々はこうした海岸を好んで散策します。海岸の多くは、なだらかな砂浜なので、気軽に散策を楽しむことができるのです。

デンマークには砂浜、ノルウェーには山々がありスウェーデンには森があります。それぞれの国に異なる魅力があります。

私は、広大な砂丘で有名なデンマーク北部の西の海岸沿いの街で幼少期を過ごしました。今でもその感覚は忘れていません。両親とともに冬以外は決まってこのサマーハウスを訪れ、週末のほとんどを過ごしたものです。

このサマーハウスで私は、前号でご紹介させていただいたデンマークの“ヒュッゲ”を身をもって体験しました。夜にはたくさんのキャンドルやオイルランプを使い、それはとても居心地の良い空間でした。でも、若い私には居心地が良すぎたようです。いつも早々に眠ってしまいましたから。

サマーハウスが人気のもうひとつの理由は、沿岸部という立地にあります。厳しい気候と砂によって芝生や植物はあまり成長しません。そのため、半年以上留守

にしてからサマーハウスに戻っても留守にしたときと変わらない状態を保っています。それは夏の後であつてもです！

サマーハウスでもデンマーク流のインテリアスタイルが貫かれています。良質なスタイルを表現する一方、サマーハウスが普段の家と同じものであってはいけません。それでいて、モダンなデンマークらしいインテリアスタイルでなければいけません。その結果、デンマークのサマーハウスはよりカジュアルなものになっています。それに対して、隣国のノルウェーやスウェーデンのサマーハウスはもっと伝統的な田舎風のインテリアスタイルを採用しています。8ページから11ページで紹介しているヴィルヘルム・ウォラートのサマーハウスはデンマークのサマーハウスの典型例とは言い難いのですが、別の理由でこちらの写真を掲載することにしました。

デンマークにお越しの際は、ぜひ1週間ほどサマーハウスを借りてみてはいかがでしょうか。広いビーチが近くにあるような、海外沿いがおすすです。車で運転した先にもいくつか広いビーチがあるような場所が良いでしょう。こちらのページで紹介しているサマーハウスがその好例です。砂丘を囲む空間は実に広々としています。そしてデンマークの人々のように、どんなに天気が悪くてもビーチを散策してください。天気に合わせて服装で出なければ大丈夫ですよ。私たちデンマーク人は、雨が降ってしまうと、海岸沿いを散策するときは傘なんてささないのです。

# 名作の話

A STORY ABOUT A MASTERPIECES

この20年間における椅子や照明がたどった復刻生産という道のりについて考えるのは興味深いことです。

私は、こうした試みに携わり、発展に貢献した人々を多く知っています。

ここでは、ふたつのすばらしい例をご紹介します。

30年ほど前のことですが、私はとある著名な日本の

コレクターの方のご自宅に宿泊しました。彼が所有していたソファは、1941年にフィン・ユールがデザインした“ポエットソファ”のオリジナルでした。それは、第二次世界大戦の頃のもので、私はクラシックなデザインという印象を持っていました。それは遠い過去の家具に対するイメージです。現代のインテリアには合わず、その当時人々は興味を示さないものだと思っていました。それから10年後、デンマークの“One Collection”という会社が突如としてデンマークのデザイナーであるフィン・ユールが手がけた過去のデザインの椅子を復刻生産を開始しました。それからさらに数年後の2001年に彼らは“ポエットソファ”を発売しました。家具の展示会を訪れたほとんどの人は、私と同じ意見を抱えていました。それは、まるで昔の映画から出てきたかのようなのでした。あまりにオールドファッションすぎて、現代のインテリアにはふさわしくない。それと同時に、彼らは“ペリカンチェア”も発表したのです。これもまた、多くの人々にとってはモダンインテリアとは相容れないイメージのアイテムでした。

こうしたフィン・ユールによる家具を2001年に発表したことは、インテリア業界においてとても重要な出来事でした。たった数年で、デンマークの人々のモダンインテリアに対する見方を変えてしまったのです。その後フィン・ユールのデザインは多大なる人気を博しました。ほかのメーカーもこぞってフィン・ユールのようなスタイルの家具を製造するようになったのです。17年を経たいま、このデザインは主流となりました。

2001年の発表当時には誰がこうなることを予測できたでしょう！

ほかにもうひとつ、良いデザインを追求する情熱に関するフランスのコレクターでありDCWのオーナーの、フィリップ・カーゼールとフレデリック・ウィンクラーによる印象的なストーリーをご紹介します。「もしも人類の理想の一つが美の王国を築くと言う事であるなら、常に対象となるものを改良していかねばならない」柳荘悦(1889年~1961年)の言葉です。そしてこの言葉は彼らにとって長年にわたり核となる信念となりました。二人は20年もの間フランスのアンティーク照明を収集しており、1921年にデザインされたThe Lampe Grasの膨大なコレクションもそれらの中のひとつです。そして2008年に彼等はThe Lampe grasの復刻生産を始める事を決定します。

FINN JUHL - POET SOFA



DCW - LAMPE GRAS



karakter®



**NOTRE DAME**  
2010  
ノートルダム  
(カラクター)

Designer:  
Laura Strasser  
(ローラ・ストラッサー)



Notre Dameのデザイナーであるドイツ人のローラ・ストラッサーは、磁器やセラミックデザインに焦点を当てたデザインスタジオを2009年に設立しました。スタジオの設立当初より、彼女はドイツ中部に位置するテューリンゲン州の磁器製造者たちとの密な取り組みを続けてきました。彼女は中国の伝統的な磁器からインスピレーションを得たプロジェクトにもいくつか携わりました。

ランプの名前は、2010年のパリで行われた新商品発表会での出来事由来しています。熱心なクライアントのひとりが、磁器を触ろうとして2つのランプシェードをうっかりぶつけてしまい、その磁器がぶつかる音はその場に大きく鳴り響きました。クライアントが作品名を尋ねると、カラクターのオーナーであるクリスティアン・エルビングは「Notre Dame (ノートルダム)です」と啾嗟に答えたのです。

ランプシェードは、世界のトップブランドにも磁器製品を製造供給している、ドイツのライヘンバッハにある工房で製造されています。摂氏1420度という高温で焼成されることによって、非常に硬く美しい半透明な磁器が完成します。

david  
trubridge



**KŌURA  
FLORAL**  
コウラ/フローラル  
(デビッド・トゥルブリッジ)

Designer:  
David Trubridge  
(デビッド・トゥルブリッジ)



デビッド・トゥルブリッジはイギリスで育ち、造船を学びました。その後、ヨットを購入して4年間、家族で世界をまわり、太平洋諸島を訪れるうちに、その地域の巧みな手仕事、特に竹材を使った工芸品に興味を抱きました。彼は1985年にニュージーランドにたどり着いたのち、オーストラリアのワークショップで教えながら自然の幾何学的構造について学び始めました。ここからインスピレーションを受けたトゥルブリッジは竹に注目し、購入者自身が組み立てられる大きなペンダントライトをデザインしました。現在、ニュージーランドのホークスベイにある彼の工房とショールームには25人ほどのスタッフがいます。その工房で生まれたデザインアイテムは今、世界中の主要な展示会に度々登場しています。

竹の合板を使用したパーツを組み合わせることで、独特の幾何学的な模様シェードとなるライトです。例えばCORAL PENDANTは1つのパーツを60枚つなぎ合わせることで構成されています。



Expand  
Your  
Living Space

## デンマーク発の多機能ソファベッドメーカー INNOVATION LIVING

INNOVATION LIVINGがソファベッドを作るというビジネスを思いついたのは約30年前に遡ります。このアイデアはのちにソファベッドという概念を超えてそれ以上に多目的に使えると同時に、一見ソファベッドには見えないデザインに進化します。

ユーザーのライフスタイルに合わせて様々な使い方ができる多機能ソファです。

デンマークのランダースに本社を構えるINNOVATION LIVINGは年間10万台以上のソファを生産しており、国際的な企業に成長しました。

チーフデザイナーのペア・ワイスは1989年にクリエイティブ・ディレクターに就任、現在に至ってもそのコンセプト、製品デザイン、マーケティング等全ての責任を担っています。

社長のモータン・リンド氏によれば、INNOVATION LIVINGの大成功の秘訣はほとんど全てのパーツを自社工場生産しているため、どんなに細かい部分でも品質や生産のコントロールを自分たちでできることです。リクライニングの機能を毎日使う人もいるかもしれない、そのためには非常に厳重な品質テストをパスしなければいけません。

『ベッドの機能を持ち、奥行きを伸ばすことができる多機能でありながら一見ソファベッドには見えない高品質で魅力的なデザインのソファ』をお客様に選んでいただけるよう、また、他のインテリアと程よく調和するソファであるよう企業努力をすることが一番重要だと考えています。住宅のインテリアスタイルを壊すことなく多目的に使うことができる高品質なソファを追求する、これがINNOVATION LIVINGの全てです。



Povl Vilhelm Wohlert

## ルイジアナ近代美術館の建築家 ヴィルヘルム・ウォラート

デンマークで訪れてほしい場所をひとつ選ぶとすると、私の1番のお気に入りである、  
コペンハーゲンから35キロほど北にあるルイジアナ近代美術館でしょう。

この美術館は、世界でもっとも著名なアート作品の企画展を行なっている美術館のひとつです。

著名な作品が世界各地の4、5箇所ほどの会場をまわる巡回展に出展する際、会場としてルイジアナ近代美術館が選ばれることも少なくありません。

近年では、オノ・ヨーコや草間彌生などの日本人アーティストの作品も展示されました。



次のページでご紹介するサマーハウスを設計したヴィルヘルム・ウォラートは、これまでに数多くの建築物のデザインを手がけました。中でももっとも有名な作品のひとつが、1958年にオープンしたルイジアナ近代美術館です。その後、ほかの建築家たちが増築に増築を重ね、訪れる人が出口までひとつの方向に沿って歩けるような円形の建物として1991年によく完成しました。こうした増築は建築物にすばらしい効果を与えています。彼は、建築物が自然に寄り添うことができるように、と基礎の段階から考えていたのです。

ルイジアナという名前は、所有者のアレクサンダー・ブルンに由来しています。彼は生涯において3人の女性を妻とし、不思議なことに3人とも名前がルイズだった事にちなんで命名しました。この住居は現存しており、1855年の建設の際に美術館の入り口となりました。美術館は1958年に当時の所有者であったクヌドゥ・W・ヤンセンによって建設されました。彼は、建築家であるヴィルヘルム・ウォラートとヨルゲン・ポーに声をかけ、所有地の周りを何か月にもわたって歩き回り、風景にふさわしい新しい建築物について考えを巡らせました。研究を重ね、彼らはまずガラスの廊下でつながった3つの建物からなる美術館という形で最初のバージョンを描きました。このデザインは、近代のデンマーク建築において極めて重要な位置付けとなり、アート、建築、風景がみごとに調和を描いています。ヴィルヘルム・ウォラート設計の建築の後も数々の増築が行われま

したが、建築物の最大の魅力はガラスの回廊です。周りの美しい環境なくして、訪れる人にインパクトを与えることはできません。ガラス廊下はさらに広い空間へと続いています。

その先には何があるのだろう、というワクワクするような感覚が自然と一体化した大きなガラスから降り注ぐ太陽の光と自然を取り込んだ空間から沸き起こるのです。

ルイジアナ美術館にはアレクサンダー・カルダーによる彫刻の庭とアンディー・ウォーホル、アンゼラム・キーフアー、パブロ・ピカソ、ロイ・リキテンスタイン、イヴ・クライン、デヴィッド・ホックニー、ロバート・ラウシェンバーグ、アスガー・ヨルン、アルベルト・ジャコメッティをはじめとする世界的に有名なアーティストの作品が常設展示されています。中でもジャコメッティの『歩く男』が一番有名な作品ではないでしょうか。この作品は英サザビーズで約119億円で落札されました。初めて美術館を訪れる人は、そのときの企画について心配する必要はありません。1年を通してこの美術館にはあらゆる優れた作品が展示されているのですから。

デンマーク滞在が短い方は、朝から午後14時くらいまでをコペンハーゲンで過ごし、女王の住居や近くの運河をめぐる早朝ボートツアーを楽しむのが良いでしょう。その後、フムルベックまで電車で行き、駅から10分ほど歩いた先にあるルイジアナ美術館を訪れてください。デンマークに1日しか滞在できなくても、ふたつの最高のロケーションを堪能できます。



SUMMER HOUSE



# PYRAMIDERNE

ヴィルヘルム・ウォラートとサムソー島のサマーハウス



どんなに控えめに表現しても美しいとしか言いようがありません。ここでは森、ビーチ、そして砂丘が、黒く塗られた長い外壁のある藁葺き屋根の家と一体化し、自然保護地区であるその環境と見事に調和しています。天井を高くとった部屋のピラミッド上部にはガラスがはめ込まれ、柔らかな自然光が上から、そして部屋の角にある窓やガラス戸からふんだんに入ります。

建築家が建物の設計をする際に、周辺環境を考慮に入れることはとても重要です。建物はその土地と一体となるべきものだからです。別の言い方をすれば、建物はその土地特有のものになるべきで、周囲の環境とうまく対話し、調和しなければいけません。もし、この重要な法則を守らなければ残酷な結果になりかねず、こうした悲劇は建築史の中で数多くみられます。





多くの偉大な建築家は、この重要なパラメーターをもとに設計に取り組んできました。シドニーのオペラハウスを設計した、ヨーン・ウツォンは、デンマークの最も有名な建築家の一人です。1972年にマジョルカ島に建てられた彼の素晴らしい海辺のヴィラ『Can Lis』は、マジョルカ島の建築スタイルをなぞり、常に移り変わる光と海岸線と調和しています。近年作られた建築では、アイスランドの首都レイキャビックに誕生した新しいランドマークである『Harpa』をあげることができるでしょう。このコンサートホール・カンファレンスセンターはヘニング・ラーセン・アーキテクトが設計したもので、芸術家オラファー・エリアソンが12角形のガラスを使った見事なファサードを作りあげました。

また、ヴィルヘルム・ウォラート (1920-2007) も、建造物が周囲の環境といかに調和するかを考慮することで有名でした。特筆すべきなのは、パートナーのヨルゲン・ポーとともに30年かけて完成させたルイジアナ美術館の増築でしょう。その増築は、ガラス戸と窓のある長く開放的な廊下によって、庭園とエーレスンド海峡が建物内に取り込まれている素晴らしいものでした。彼は他にも数々の素晴らしい建築を作りあげてきましたが、ここではデンマークの最も美しい小さな島の一つであるサムソー島内の自然保護地区に立つサマーハウスに目を向けてみましょう。

その家には、黒く塗られた長い外壁の両端にピラミッドが一つずつ、美しい藁葺き屋根の上に乗っていました。そこからはカテガット海



峡を東に、オーフス湾を西に望むことができます。家の北西側には正方形の部屋が作られ、建物から尖って出るような形で斜めに配置されています。この特徴的な部屋の形は、以前サムソー島の各地に見られたテレグラフ塔をイメージしています。

天井の高いその部屋の頂点のピラミッドにはガラスがはめ込まれ、柔らかな光がピラミッドの上から、部屋の角にある細長い窓から、そして横のガラス戸からふんだんに差し込んでいます。このサマーハウスのオーナーの一人である画家のカリン・ビルヒッテ・ルンドがここでグレートーンの繊細なドローイングを進めていました。そして反対側にある小さなピラミッドの部屋では、もう一人のオーナーであるペレ・グズモンセン＝ホルムグリーンが音楽を作曲しています。また、「ピラミッドの下にいるのは、脳に良いとされ、さらに考えがクリアになり、効率が上がるそうです」と、ペレは皮肉っぽく言います。ここでは好きなだけ大きな音を立てることができる、反対側にあるアトリエに彼の妻がいるとき、その音は彼女には聞こえませんが。自然保護局は、家は藁葺き屋根であること、そして建てるのは一棟だけということ、その壁は白石灰または黒いタール塗りであることを条件として彼らに提示しました。

ヴィルヘルム・ウォラートにとってこのプロジェクトは彼自身の美学を最高に表現できる仕事になったようです。例えば彼はレンガ製の暖炉をこの家の幾何学的な形に合わせて一箇所にまとめて設置する方法を採用しました。この構造には費用がかかりましたが、彼は決して譲りませんでした。

外壁、内壁とも亜麻仁油ベースの塗料で塗られています。外壁を生亜麻仁油を薄めたもので塗り、木材を強化しました。この家は砂丘の上で更に海辺に建っているため、このような手順が必要でした。この家の全てのタイルはハンドメイドで作られ、取っ手は真鍮製です。この家にはその形状や機能以外にも、各部屋にあるロフトやガラス扉など素晴らしいアイデアに溢れています。この家全てのディテールへの追求されたこだわりと心づかい、それはヴィルヘルム・ウォラートによるクラフトワークの姿勢を表しているのです。



# BO BEDRE JAPAN

BO BEDREは北欧最大のライフスタイル誌です。  
月刊誌「BO BEDRE」の発刊や日本語版の「BO BEDRE JAPAN」の製作を中心に各種イベントやワークショップの企画・開催やコンサルティング業務も行っています。ライフスタイル全般にわたり日本と北欧をつなぐ情報発信をしています。 [www.bobedre.jp](http://www.bobedre.jp)



DICE STORAGE

Core Oneは10年前に設立されたデンマーク人が経営する家具工場です。2年前に、エレガントで軽快そしてリーズナブルな収納家具を作る事を目指しました。完成した収納家具Diceは、オークの棚板と組み合わされた黒のスチールフレームですっきりした印象を与えます。組み合わせにより様々な生活スタイルに合わせた使い方が可能となります。“Says Who” というデザインユニットのキャスパーとニコライという若いデンマーク人の2人によりデザインされました。



## 抽選で10名様に「ハンティングチェア」プレゼント。

[news@royal-furniture.co.jp](mailto:news@royal-furniture.co.jp) のアドレスに会社名、お名前、ご連絡先をご明記の上「プレゼント応募」の件名でご応募下さい。● 法人様(インテリア関連) 限定のご応募とさせていただきます。● 応募の締め切りは9月30日、ご当選の通知メールの発送は11月の末を予定しております。● ご応募をいただいた方には不定期でメールマガジンの配信をさせていただきます。

## NEXT ISSUE !

### ビルバオ・グッゲンハイム美術館

次号では、スペインのビルバオにあるビルバオ・グッゲンハイム美術館について書く予定です。フランク・ゲーリー作の建築であることに加えて、それは非常に多くの点で変化を生みます。まず第一に、その地域社会にとって多大な経済効果と影響を与えます。もちろん、そこを訪れた旅行者はホテルの部屋からの写真の風景を経験する人もいます。



WALLNOMA

BIG SIZE!  
PRINT ON  
ALUMINUM

## アート特化型の オンラインショップスタート!

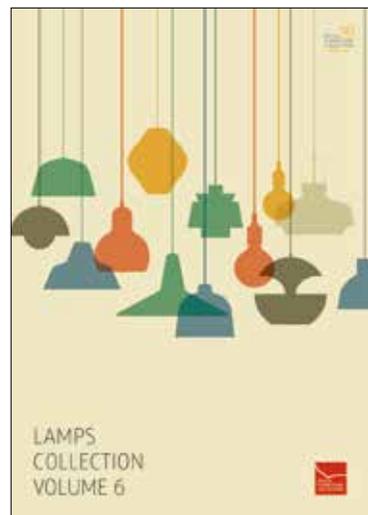
[www.wallnoma.com](http://www.wallnoma.com)

ロイヤルファニチャーコレクションは東京を拠点にして30年間、北欧を中心とした輸入家具と照明器具を販売してきました。私たちは取り扱うインテリア商品が、一般の住宅で使われているのを見て何かが足りないと感じていました。素晴らしい家具、照明のコレクションをより完璧なものにする何かが。そしてそれが壁に飾るアート作品という事に気がきました。そこで私たちは、ユーザーが手軽に購入できる「wallnoma」というWEBショップをスタートします。私たちが最初に提供するブランドは長年にわたって壁を飾る絵のサプライヤーをしているオランダのMondiArtです。アルミニウムに直接プリントされた美しい発色の特徴のヨーロッパを代表するブランドです。WALLNOMAでセレクトした500枚以上のアートが、北欧と同じように日本におけるインテリアの一部になる事を期待しています。MONDIARTに関してはウェブショップでの販売となります。

法人のお客様へ：ホテル、カフェ、レストラン等の商業施設、オフィス、公共施設等の案件対応のご相談は下記までご連絡をお願い申し上げます。  
(株)ロイヤルファニチャーコレクション WALLNOMA 事業部  
[info@wallnoma.com](mailto:info@wallnoma.com) 03-3593-3801

## 新しい照明カタログが 完成しました! 総ページ数180P

ロイヤルファニチャーコレクションの新しい照明カタログが完成しました! 世界中のメーカー18社から選りすぐりの照明器具を集めました。カタログ発送ご希望のかたは[info@royal-furniture.co.jp](mailto:info@royal-furniture.co.jp)までお問い合わせください! また、ホームページよりPDFデータでダウンロードも可能です!  
[www.royal-furniture.co.jp](http://www.royal-furniture.co.jp)



日本総販売元  
株式会社 ロイヤルファニチャーコレクション  
〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4 1階:ショールーム 2階:オフィス  
TEL:03-3593-3801 FAX:03-3593-3802  
[www.royal-furniture.co.jp](http://www.royal-furniture.co.jp) [info@royal-furniture.co.jp](mailto:info@royal-furniture.co.jp)